

項目	3 県立美術館の魅力を高めるための取組について
答弁者	スポーツ・文化観光部長
質問要旨	<p>東京にあるアーティゾン美術館の創設者である、株式会社ブリジストン創業者の石橋正二郎は、「世の人々の楽しみと幸福の為に」という言葉を残しており、人間はただ生きるだけではなく、楽しく幸せに暮らし、生きがいを持つこと、文化的な生活を送ることが大事であり、文化の発展が明るい社会をつくる、その一端に自分も寄与したいと願う名言である。</p> <p>県議会100周年記念事業の一環として、昭和61年4月に開館した県立美術館は、開館以来、早くも38年が過ぎようとしている。平成6年度には、年間40万人を超える観覧者数を記録し、平成19年に、日本経済新聞社から発刊された「五つ星の美術館」では、国内主要な公立美術館134館のうち、「五つ星の美術館」として、全国4位の評価を受け、これまでに多様な展覧会を通じ640万人を超える観覧者を迎えている。</p> <p>私が心配していることは、年々、県立美術館の集客力が落ちていることである。開館以来の年間平均観覧者数は16万8千人を超えているが、コロナの影響もあって、直近5年の年間平均観覧者数は9万人を割っており、昨年度の観覧者数は、5万人をようやく超えるほどとなっている。昨年度は、約3か月間の工事休館があったことを差し引いても、観覧者数が減少傾向にあるのは明らかであり、県立美術館の魅力が薄れてきているのではないかと危惧している。</p> <p>令和8年度に県立美術館は40周年を迎える。県立美術館が県民に身近な存在であり続けるためにも、今後、より多くの県民に足を運んでいただけるよう、県立美術館の魅力を取り戻すための取組が一層求められるとともに、石橋正二郎氏が残した名言を実現するような、人々の生活に豊かさをもたらす取組ができているか、県の所見を伺う。</p>

<答弁内容>

県立美術館の魅力を高めるための取組についてお答えいたします。

県立美術館は、訪れた方が、自分とは異なる時代を生きた人々の暮らしや、現代の新たな表現に触れることで、普段の生活の中では知ることのない価値観と出会い、考え、理解し合う場を提供し、創造的で多様性に富んだ豊かな社会を実現していくことを目指しております。

これまで、富士山をはじめとした山水・風景画を中心に、本県ゆかりの作品や近代以降の彫刻作品など、幅広い分野で、コレクションを活用した多彩な展覧会を開催してまいりました。コロナ禍の影響もあり、令和3年度以降の観覧者数は伸び悩んでおり、再び、多くの方に足を運んでいただけるような魅力を高めるための取組が必要と考えております。

令和8年度に迎える開館40周年は、県立美術館の魅力を再発信する絶好の機会があります。2,800点を超えるコレクションから厳選した、伊藤若冲、横山大観、

ポール・ゴーギャンなどの県立美術館が世界に誇る作品を展示し、ロダン館を含む美術館全体で、特別感を演出した記念展覧会を開催する予定です。

今後、県民の皆様や有識者の御意見を伺いながら、様々な年代の方に来館していただけるよう、展示内容やワークショップなどを一層充実させ、多様な表現との出会いや新たな芸術体験の機会を提供することで、県立美術館の更なる魅力の向上を図ってまいります。

以上であります。

項 目	3 県立美術館の魅力を高めるための取組について【再質問】
答弁者	スポーツ・文化観光部長
質問要旨	様々な年代の方に来館していただけるよう、展示内容やワークショップなどを一層充実させるとのことだが、具体的にどのようなことを進めていくのか伺う。

<答弁内容>

県立美術館の基本理念でございますけれども、「創造的で多様性に富んだ社会を実現していく」としております。この取組を進めることによって、県立美術館の魅力を高めまして、多くの方に足を運んでいただけるものと思っております。

具体的には、例えば、専門家や地域の文化団体等の御意見を踏まえまして、広く県民に親しまれるようなエジプト展など博物館的な展覧会であるとか、あとはコレクションを生かした展覧会などの展示、作品や作家とより深く関わることのできるワークショップの開催などによりまして、多くの県民の皆様には足を運んでいただけるよう取り組んでまいりたいと考えております。